
君に花束を

R A N

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君に花束を

【Nコード】

N6624U

【作者名】

RAN

【あらすじ】

世界が平和になった後、子供たちが成長した時代の話。ラインハットとグランバニアは友好国として交流を持ち、度々互いに訪れるようになっていた。

またグランバニアからラインハットへ訪れる日、ラインハットの王子コリンズは、グランバニアの王女アリアにあることを伝えると決心していた。

< 1 > (前書き)

カイン || 主人公、シオン || 王子、アリア || 王女

朝からコリンズは落ち着かない様子だった。

それは誰の目から見ても明らかだ。

世界が平和になってから時が経ち、幼かった子供達も、青年と呼べるほどにその外見は成長していた。

この年になると、ある程度の落ち着きは見せ始め、コリンズもだんだんと王子であることの自覚を持ち始めていたが、今日の落ち着きのなさには理由があった。

「コリンズ、いい加減落ち着け。もうすぐカイン達が来るんだから、みつともないところを見せるんじゃないぞ」

「わ、わかっているさ、父上」

にやけながら言うヘンリーに、コリンズは顔を赤くして答える。

だが、言葉と態度がまったく違っており、ヘンリーのニヤニヤ笑いはそのままだった。

コリンズの落ち着きのなさの原因はこれにあった。

カイン達がラインハットに着いたのはそれから間もなく、太陽が天頂に上った頃だった。

「コリンズ！」

着いた船から真っ先に降りてきたのは鮮やかな金髪の眩しい少年シオンだった。

「コリンズ、コリンズー！」

まるで人懐こい犬が駆け寄ってくるように、シオンは出迎えに来たコリンズに駆け寄って 体当たりした。

まさにそれは、大型犬にされたのと同じぐらいの衝撃だった。不意打ちだったので、コリンズはシオンと一緒に倒れこんでしまった。

「こら、シオン！ まずはちゃんと挨拶しなさいって言ったでしょ？！」

ビアンカが船から慌てて降りてくる。

その後ろから、ゆっくりとカインが苦笑いで降りてきた。

そして

「お兄ちゃん！ 何してるの?!」

シオンの行動に驚いて、慌ててカインの後ろから出てくるのは、アリア。

コリンズは途端に勢いよく起き上がる。

シオンは不思議そうな顔をして、コリンズを見る。

アリアはそんな二人に近寄り、地べたに座り込んでいる彼らに視線を合わせるようにしゃがみこんだ。

「ごめんなさい、コリンズ。大丈夫だった？」

コリンズはアリアをただぼーっと見つめてうなずく。

「そう。よかった」

アリアはほっとしたように口元をほころばせた。

「なんだよ。ボクが全部悪いみたいない方だな」

シオンがむっとしたように口を曲げた。

「お兄ちゃんはいつまで経っても行動が子供だから困るのよ。体ばかり大きくなって」

アリアはそんなシオンを冷めた目で見下ろす。

「……………」

シオンは何か言い返したかったが、アリアの言うことはもったもなので、何も言えない。

渋々立ち上がり、コリンズの手を取って、コリンズも立たせた。

「コリンズ、お兄ちゃんがごめんなさい」

アリアが走り寄ってきて、立ち上がったコリンズに言った。

「いや、別にいいんだ。……久しぶりだね、アリア」

コリンズは、かすかにアリアから視線をそらしながら言った。

アリアはそれに、少し複雑な笑みを浮かべて応えた。

この笑みが、コリンズの胸を痛める。

アリアはコリンズに対して苦手意識がある。それはわかっていた。小さい頃のコリンズの悪戯がひどかったのは父親に似ていたのは言うまでもないが、好きな子はいじめたいという心理も働いて、コリンズは小さい頃からアリアに何かとちょっかいをかけていた。

今ではお互い少し大人になったので、あからさまに苦手意識をあらわしたり、いじめたりするようなことはないが、子供の頃からの意識というのは、意外に根深いものであった。

コリンズは、何とかそれを解消したいと、毎日思い悩んでいた。

そして、アリアが訪れるたびに、そのきっかけを探っているのがある。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6624u/>

君に花束を

2011年7月8日14時56分発行